

第51回茨城県障害者技能競技大会

ワード・プロセッサ―競技課題

1. 競技課題

文書作成競技、作表競技、入力競技の3種目とする。

(1) 文書作成競技 (制限時間30分、出力時間10分)

文書内の指示に従い、課題を次の方法により作成する。

① ページ余白を上25mm・下15mm・左右30mmに設定する。

② 1行の文字数を40字に設定する。

③ A4判縦長・横書きで作成する。

完成度・正確度・体裁により評価する。

(2) 作表競技 (制限時間30分、出力時間10分)

課題を、次の方法により作成する。

① ページ余白を上下左右20mmに設定する。

② A4判縦長・横書きで作成する (罫線を含む)。

完成度・正確度・体裁により評価する。

(3) 入力競技 (制限時間10分、出力時間10分)

課題を、次の方法により作成する。

① 1行の文字数を35字に設定する。

② A4判縦長・横書きで作成する。

完成度・正確度・体裁により評価する。

2. 注意事項

(1) 競技開始前に、使用ソフトを立ち上げ、機械の調子を確認してください。

(2) 競技中に機械の故障やソフトの不具合が発生した場合、挙手をして競技委員の指示に従ってください。

(3) 競技中の退場は失格となります。ただし、トイレに立つ場合は、挙手をして競技委員の指示に従ってください。(競技時間に含まれるので、注意してください。)

(4) 競技は、課題ごとにそれぞれの時間内で行ってください。

(5) 競技開始の合図(「始め」と言いながら手を上げます)があったら、使用ソフトを立ち上げて競技を始めてください。

(6) 競技の課題ごとに、作成したファイルに指定のファイル名を付け、デスクトップに保存してください。

(ファイル名:「氏名」+「課題」+「課題番号」、例:「茨城太郎課題1」)

(7) 競技の課題ごとに、選手番号と氏名を1行目の左側に入力してください。

(8) 競技終了の合図(「終わり」と言いながら手を上げます)があったら、直ちに競技を中止し、競技委員の指示に従ってください。

(9) 課題は、各競技時間の終了後に印刷して提出してもらいます。

(10) 印刷後、各競技課題のデータは、上書き保存し、デスクトップに残してください。

(11) 課題は、開始の合図があるまで手を触れないでください。

(12) 紙製の辞書の持ち込み・使用は可能とします。

課題1 文書作成競技 (問題)

(選手番号、氏名)

令和4年8月吉日

お客様各位

いばらきサービス 水戸支店 **①右寄せ**

支店長 雇用 太郎

お客様感謝デーのご案内 **②18ポイント・センタリング・ゴシック体・下線**

拝啓 晩夏の候、時下ますますご清祥のこととお慶び申し上げます。平素は格別のお引き立てを賜り、心よりお礼申し上げます。

さて、このたび当社では、お客様への日ごろのご利用を感謝いたしまして、下記のとおりお客様感謝デーを開催いたします。ご来店プレゼントや豪華商品満載のビンゴゲーム等でお楽しみいただけます。

ご多忙とは存じますが、ご家族皆様でのご来店を心よりお待ちしております。

敬具

記 **③センタリング**

④均等割り付け (4文字幅)

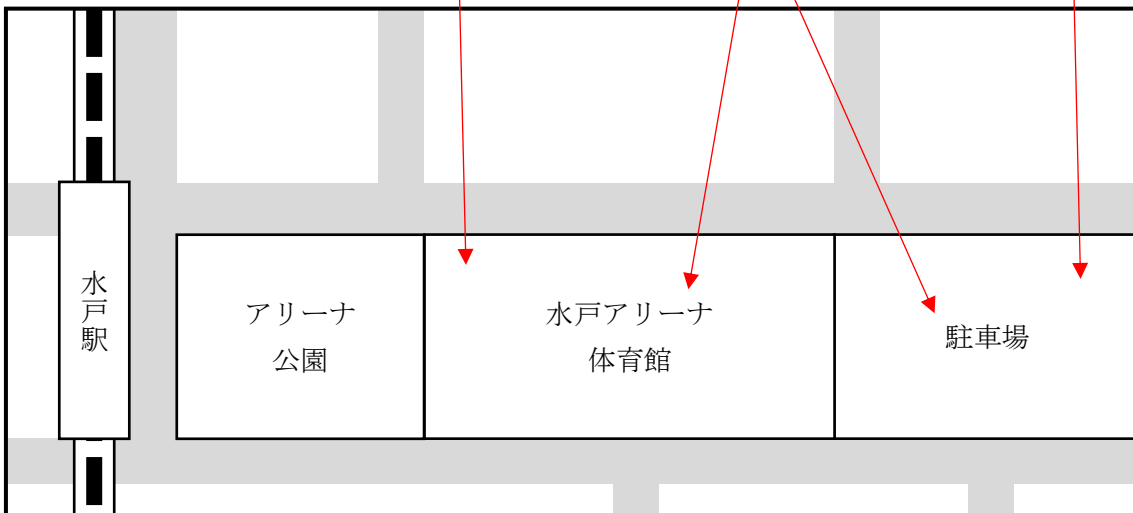
- | | |
|--------|-----------------------|
| 1. 開催日 | 令和4年8月20日 (土曜日) |
| 2. 時間 | 10:00~16:00 |
| 3. 会場 | 水戸アリーナ体育館 (水戸市中央町1-1) |
| 4. その他 | ビンゴゲーム開催時間 |
| | 1回目 11:00~ |
| | 2回目 14:00~ |

以上

⑤図形の塗りつぶし (黄) **⑥図形の塗りつぶし (薄い青)**

⑦太字・14ポイント

周辺地図



(選手番号、氏名)

販売員別地域別販売計画と実績表

(令和 4 年分)

(単位：万円)

販売員		地域					合計
		A 地区	B 地区	C 地区	D 地区	E 地区	
鈴木 豪	計画	1,000	350	100	80	0	1,530
	実績	800	350	100	100	0	1,350
松本 郁子	計画	250	3,000	750	100	0	4,100
	実績	250	2,700	750	100	0	3,800
上田 正太郎	計画	250	1,500	2,000	0	150	3,900
	実績	250	1,600	1,900	0	1,200	4,950
岩佐 佳人	計画	500	100	2,000	0	1,230	3,830
	実績	200	100	2,000	0	1,200	3,500
岡島 久美子	計画	120	0	300	3,000	1,500	4,920
	実績	100	0	400	3,500	1,500	5,500
古瀬 知己	計画	0	200	120	100	100	520
	実績	0	250	150	100	100	600
合計	計画	2,120	5,150	5,270	3,280	2,980	18,800
	実績	1,600	5,000	5,300	3,800	4,000	19,700

(選手番号、氏名)

2015（平成27）年の「パリ協定」において国際的な合意がなされた気候変動問題が注目される中、日本としても、今世紀後半のできるだけ早期の脱炭素社会の実現を掲げた「パリ協定に基づく成長戦略としての長期戦略（令和元年6月11日閣議決定）」及びそのための革新的技術の確立を目指す「革新的環境イノベーション戦略（令和2年1月21日統合イノベーション戦略推進会議決定）」を策定しました。さらに、令和2年10月の臨時国会での総理所信表明においては、気候変動問題への対応を国家としての最重要課題の一つとして位置付け、2050年までのカーボンニュートラルの実現という目標が掲げられました。2年12月には、脱炭素化に向けた革新的技術を着実に社会実装するための「グリーン成長戦略」を策定し、温室効果ガスの大幅な削減と経済成長の両立に資するエネルギー科学技術の研究開発に取り組んでいます。文部科学省は、徹底した省エネルギー社会を目指した研究開発を関係府省及び関係研究機関と連携して推進しています。例えば、2014（平成26）年のノーベル物理学賞を受賞した青色発光ダイオードの発明に代表される次世代半導体の研究開発は、我が国が強みを有する分野の一つであり、大きな省エネ効果が期待される窒化ガリウム（GaN）等の次世代半導体を用いたパワーデバイス等の2030年の実用化に向け、材料創製からデバイス・システム応用までの次世代半導体に係る研究開発を一体的に推進しています。これまでも、半導体デバイスの実現に必要な、GaN基板の特定の部分のみをp型GaNにする技術の開発に世界で初めて成功するなどの成果を創出しています。科学技術振興機構（JST）は、「戦略的創造研究推進事業先端的低炭素化技術開発（ALCA）」及び「未来社会創造事業『地球規模課題である低炭素社会の実現』領域」において、温室効果ガス削減に大きな可能性を有する従来技術の延長線上にない革新的技術の研究開発を推進しており、その中で太陽光利用技術、蓄電技術等の研究開発を推進しています。例えば、2019（令和元）年に吉野彰氏がノーベル化学賞を受賞したリチウムイオン蓄電池の発明に代表されるように我が国が強みを有する蓄電池分野については、現在の蓄電池を大幅に上回る性能を備える次世代蓄電池技術に関する基礎から実用化までの一貫した研究開発を経済産業省と連携しながら推進し

ています。また、「未来社会創造事業大規模プロジェクト型」においては、環境中の熱源（排熱や体温等）をセンサ用独立電源として活用可能とする革新的熱電変換技術の研究開発を実施しています。理化学研究所は、エネルギー利用技術の革新を可能にする全く新しい物性科学を創成し、エネルギー変換の高効率化やデバイスの消費電力の革新的低減を実現するための研究開発を推進しています。物質・材料研究機構は、多様なエネルギー利用を促進するネットワークシステムの構築に向け、高効率太陽電池や蓄電池の研究開発、エネルギーを有効利用するためのエネルギー変換・貯蔵用材料の研究開発等、エネルギーの安定的な確保とエネルギー利用の効率化に向けて、革新的な材料技術の研究開発を推進しています。

（「令和2年度 文部科学白書：第2部 第7章 科学技術・学術政策の総合的推進／文部科学省」より抜粋）